

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|------------|----------|
| 事業所番号 | 2171700525 | | |
| 法人名 | 有限会社 耕グループ | | |
| 事業所名 | グループホーム くわのみ | | |
| 所在地 | 岐阜県恵那市岩村町飯羽間1621番地6 | | |
| 自己評価作成日 | 令和5年11月8日 | 評価結果市町村受理日 | 令和6年2月8日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2171700525-00&ServiceCd=320&Type=search |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|----------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと | | |
| 所在地 | 岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル | | |
| 訪問調査日 | 令和5年12月6日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然環境にある立地を生かし、ホームの菜園や畑で育てた野菜等を入居者と職員が一緒に収穫し、日々の食材として調理し食べるなど、自然とふれあう、ゆったりとした暮らしを大切にしている。法人内のデイサービスや看護小規模多機能ホームとの交流も感染状況を見ながら行い、馴染の関係が築けている。また、地域の人々とのつながりを大事にしており、感染状況をみながらボランティアの受け入れ、地域住民参加の各種行事(季節ごとの祭りやコンサート等)等を実施し、地域に開放されたホーム作りを心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな環境の中で、コロナ感染状況を見ながら、隣接の同法人施設と共に利用者が楽しめる行事を地域住民と共に実施している。外部との交流や外出等には制限もあるが、生活リハビリに重点を置いて支援したことで、介護度が下がった利用者もある。利用者のやりたい事を暮らしの中で実現できるよう、職員間で話し合っている。法人は複数の事業所を運営しており、職員は各部署を異動しながら経験を積み重ね、職員間の繋がりも強化されている。法人独自の実践研修発表会は、大変ではあるが学びや達成感が得られ、法人全体の人材育成の底上げになっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|--|
| 43 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 50 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 44 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 51 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない |
| 45 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 52 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 46 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 53 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 47 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 54 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 48 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 55 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 49 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 職員全員で内容を検討した理念(利用者の自立と尊厳を支える、サービスの質の向上に努める、障害があっても住み慣れた地域で暮らし続ける、働きやすい職場をつくる)について、職員一人ひとりが理念について意識を深め遂行している。 | 法人全体の理念に基づいて、毎年、事業所の目標を全職員で話し合っている。今年度は、「小さな喜びを紡ぐグループホーム」とし、半年ごとに振り返りを行っている。進捗状況を本部に報告し理念の実践に繋げている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域のお祭り、行事等には、積極的に参加している。また、事業所の企画した催しに地域住民が参加され、楽しんでいる。地域の方がボランティアで来所し季節の料理を利用者として作っている。今年は新型コロナウイルス対策により交流を制限している。 | コロナ禍で活動に制限はあるが、「くわの味祭り」では、POP作りや五平餅作りを行ったり、事業所の掃除の際には、地域のボランティアが窓ガラス拭きに来てくれるなど、地域交流をすることが出来ている。下校時の小学生が、トイレを貸してほしいと立ち寄ることもある。 | |
| 3 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2カ月に1度実施しており、くわのみ併設の他事業所と近状報告や意見交換を行い、事業所活動に活かしている。 | 運営推進会議は、同法人事業所と合同で2ヶ月毎に開催している。活動報告や職員研修、行事予定、アクシデントやヒヤリハットを報告し、意見交換を行なっている。課題等を話し合いながら、サービス向上に活かしている。前年度は、「運営推進会議活用ツール」にて、事業所内での評価を行っている。 | |
| 4 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 市高齢福祉課及び地域包括支援センターの職員とは日常的にコミュニケーションをはかり、情報交換を行っている。また、市の開催する認知症ケア連携推進連絡会、みえ研への参加、介護相談員の受け入れも行っている。包括主催の「らん伴」の実行委員会にも参加している。 | 市担当課や地域包括支援センターとは、コロナ感染予防対策や介護加算、制度に関する情報等について、電話やメールでやり取りしながら、協力関係を築いている。コロナ禍で介護相談員の受け入れを自粛しているが、受け入れ再開を検討中である。 | |
| 5 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 日中は玄関やデッキ側の扉を開錠する等、入居者に身体拘束をせず、普通の暮らしができるようなケアに意識的に取り組みをしている。 | 法人内で身体拘束適正化委員会を設置し、3か月毎に開催している。職員向けの学習会でも、拘束について正しく学び、拘束をしないケアに取り組んでいる。今後、利用者の行動を言葉で制するスピーチロックについても、意識するよう取り組むとしている。 | |
| 6 | (6) | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 成年後見センター等が主催する高齢者虐待防止に関する研修や定例の学習会などを通して、虐待の防止に努めている。 | 虐待防止についての指針を整備し、運営規程にも記載している。今後、虐待防止委員会の設置も予定している。研修は身体拘束防止研修と併せて行っており、虐待防止に努めている。 | ヒヤリハットやアクシデントは、報告のみで終わることなく、振り返りを行いながら、原因や課題点について話し合い、職員一人ひとりが考えて行動できる取り組みに期待したい。 |

岐阜県 グループホームくわのみ

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 法人内の定例学習会などに参加し、日常生活自立度支援事業や成年後見制度を学ぶ機会を持っている。 | | |
| 8 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時に「契約書」「重要事項説明書」に基づき説明を行い、理解を得ている。不明な点についても丁寧に説明している。 | | |
| 9 | (7) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者との日常のコミュニケーションを大切にしており、ケアへの不満・要望に該当すると思われる無いようについては、職員会議で対応を検討している。家族には個別に話を伺い、苦情・意見の受付窓口、解決方法等を明らかにしている。 | 利用者の思いは日常のケアを通して把握している。現在、感染予防対策を継続しながら、家族との面会も居室にて実施している。定期発行の「くわのみ通信」は、法人全体の情報が記載されており、家族が他の事業所や施設の活動等も知ることできるようになっている。利用料変更時は、文書と口頭で説明している。 | |
| 10 | (8) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 定期的な主任会議(月1回)、職場会議(月1回)を開催し、職員の意見・提案に耳を傾け、事業所運営に反映している。また、日常的に職員の意見を聞く機会を設け、運営に反映させている。 | 管理者は日常の業務の中で、職員の意見や提案に耳を傾け、主任会議や職場会議で話し合っている。また、個人面談も行いながら、職員一人ひとりの相談に応じている。職員間のチームワークも良く、何でも話せる関係性ができている。 | |
| 11 | (9) | ○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている | 岐阜県より「子育てエクセレント企業」の認定を受け女性が働きやすい職場環境を整備している。(希望休の取りやすさ、時間の調整等)また、職員のスキルアップの為に社内でもプロジェクトやサークルを立ち上げている。 | 「岐阜県ワーク・ライフ・バランス推進エクセレント企業」の認定事業所である。産休や育児休暇、時短勤務、夏休みの子連れ出勤も可能など、子育て期の職員も働きやすい環境となっている。広い和室の休憩室があるが、新たに浴室を改装してマッサージ機を設置した職員の静養室を作っている。 | |
| 12 | (10) | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 毎月の定例学習会をはじめ、外部研修や学習会への参加を積極的に奨励し、研修機会を保障している。また年1回、職場内の実践研究発表会をもうけ、研究活動に力を入れている。 | 毎月の内部研修は、職員が講師となり、担当職員の学びにつなげている。また、年1回、取り組み内容を発表する「実践研究発表会」は、実践を客観的な視点で捉え、個々の介護力の強化にも繋がっている。資格取得費用の支援や研修休暇も設けている。 | |

岐阜県 グループホームくわのみ

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 13 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている | 恵那市内の事業所の集まる交流会に参加したり、友好関係にある3つのグループホームで年3回、実践発表や相談等を行っている。 | | |
| II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 14 | | ○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 入居者とゆっくり会話を楽しむ時間を意識的に持ったり、一緒に調理や家事を楽しむ等、入居者の自己決定を大切にしながら、職員との関係性を築くことを大切にしている。 | | |
| III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 15 | (11) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 意思表示のできる人にはよく話を聴くように努めるとともに、意思伝達の困難な人の場合は、日頃の言動や表情、過去の情報などをもとに暮らし方の希望・意向の把握につとめている。「～したい」をかなえられるようにしている。 | 日常生活の中で利用者の思いを聞いている。言葉の表出が少ない人や意思伝達が困難な人は、表情や行動から、思いを汲み取っている。古い友人に会いたいという利用者の思いを叶えるために、職員が手を尽くして探し出し、面会が実現した事例がある。 | |
| 16 | (12) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ケアマネジャー、入居者個々の担当職員が、本人、家族等と話し合い、介護計画を作成している。また職員会議でもみんなで共有し、意見交換等を行っている。困難事例に対しては部署を超えて検討会を行っている。 | 毎月、担当職員がモニタリングを行なっている。利用者と家族の意向・要望を聞き取り、介護計画案を作成し、職員間で意見交換を行った後、ケアマネジャーが計画を作成している。家族には担当職員が説明し、計画内容の理解を得ている。 | |
| 17 | (13) | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別記録をもとに、ケースカンファレンスを開き入居者本人の思いを理解することを心がけるとともに、職員間の情報共有を行いながら、実践や介護計画に活かしている。 | 業務内容や申し送り等は、タブレットを活用し職員間で情報を共有している。利用者の状態が変化した場合は、介護計画も見直している。タブレットの導入時は反対意見も多かったが、現在は全職員が使いこなしている。利用者の体調変化や行動を記録し、支援方法や介護計画に活かしている。 | |
| 18 | (14) | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 独居高齢者(自立)にサポートルームの提供。地域の需要に応えられるようにしている。 | 利用者の要望から、ハンバーガー店へ一緒に行ったり、マッサージの出張訪問の手続きを支援するなど、利用者のニーズを確認しながら、柔軟に対応している。地域の独居高齢者のサポート支援にも取り組んでいる。 | |

岐阜県 グループホームくわのみ

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 19 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | ボランティアをはじめ、地域の介護保険事業所、地域包括支援センター等、フォーマル、インフォーマル問わず、多様な地域資源との協働を大事にしている。 | | |
| 20 | (15) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居時にかかりつけ医の希望を確認し、定期受診の介助支援、往診の手配等、本人・家族の意向を聞き、かかりつけ医との関係構築に努めている。また、事業所内でのカンファレンスにも参加していただくこともある。 | かかりつけ医は本人・家族が選択している。協力医は月2回の往診があり、訪問看護師は毎週来所している。かかりつけ医や専門医への受診はサマリーを提供し家族が同行している。家族対応が困難な時は職員が支援したり、介護タクシーを利用する家族もある。 | |
| 21 | (16) | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 入院時に情報提供を行ったり、また、入院時の様子を病院の相談員に確認している。退院時にはカンファレンスを開催して頂き、本人、家族も安心して過ごしてもらえるよう情報交換を行っている。 | 入院時は、病院に利用者情報を提供し、病院相談員と情報交換を行なっている。利用者は退院後は、事業所に戻りたい思いがあり、家族と共に医師の意見を聞くカンファレンスに出席し、今後の対応について意見交換をしている。 | |
| 22 | (17) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時に本人の状態が重度化した場合や終末期になった場合の意向をお聞きしながら、事業所の方針を文書で説明し、同意を得ている。病状に応じて、段階的に家族・関係者と十分に話し合い方針を共有している。 | 看取り指針を整備し、入居時に本人・家族に説明している。医療行為を望まない利用者が、入院先から戻って、看取り支援をしたケースもある。夜勤者用の看取りマニュアルも整備し、詳細な記録や状況に合わせて、職員の勤務時間の変更をする時もある。看取り後には、振り返りをしている。 | 医療連携体制にはあるが、緊急時には職員誰もが、AEDの使用が行えるよう、AED講習の機会を重ねたり、看護師からも緊急時の対応を学ぶなど、研修実施に期待したい。 |
| 23 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 以前は消防署の職員を講師に招き、救命救急法を教えてもらっていた。(コロナ禍により延期していたが状況に応じて開催予定)さらに、看護師の指導による「急変時の対応」の講習を開催し、介護職員で学習している。 | | |
| 24 | (18) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回の避難訓練・初期消火訓練を夜勤帯を想定して実施している。近隣の地域住民にも参加していただき、地域との協力体制を重視した災害対策を目指し、地域の避難拠点として備蓄庫の検討を会社全体で行っている。 | 定期的に避難訓練を実施している。隣接する法人施設が地域住民の避難所となっている。備蓄品は法人全体で準備し、定期的に点検している。避難訓練には、これまでは地域住民の参加は無かったが、今後、参加を呼びかけ、一緒に訓練を行う予定である。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 25 | (19) | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 日常のケア場面において入居者の人格を尊重する言葉かけ(指示語は絶対に使わない等)をおこなったり、プライバシーを損ねないように注意深く、さりげなくの対応を心がけている。相手の気持ちを考えるよう職員に指導を行っている。 | 職員はメンタリング研修会を受けており、利用者の様子を見ながら、言葉遣いや行動を尊重した支援に努めている。入浴介助や排泄支援時には、羞恥心やプライバシーに配慮し、浴室にはカーテンを取り付け、同性介助の希望にも応じている。 | |
| 26 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 今日1日をどう過ごすか、何をするか等、入居者の意向を尊重し、一緒に活動を決めている。 | | |
| 27 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 1日の日課は特に決まっておらず、全員揃ってやらなければならないということも決めていない。活動は強制することなく、その人の生活のリズムやスペースを大切にしている。 | | |
| 28 | (20) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | くわのみ農園で作った野菜を収穫し、取れた野菜を使って食べたい料理を作っている。また、買い物に行き、お菓子屋ジュースも選んでもらうようにしている。(コロナ禍は職員が意向を聞き取り買い物に行っている)また、野菜の皮むきや、野菜切り、盛り付けなどを一緒にやっている。 | 副食や汁物は法人の厨房で作ったものが届き、事業所で盛り付けをしている。できるだけ利用者が自分で食べられるよう、食事時間を十分に取っている。畑のさつま芋を利用者と一緒に収穫して、焼き芋にしたり、朴葉寿司や味ご飯、五平餅等、郷土の食を皆で楽しんでいる。 | |
| 29 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 1日の水分量をチェックし、水分確保に努めている。またお茶の時間の飲み物・菓子の種類、量なども個々の健康状態に合わせ調整を行っている。 | | |
| 30 | (21) | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 就寝前は義歯を預かり、消毒を行い、口腔ケアをしている。毎食後の歯磨きも欠かさない。 | 毎食後の口腔ケアを習慣としている。自分で出来る人は見守り、介助が必要な人は、職員と一緒にやっている。夕食後は、職員が仕上げ磨きをしている。義歯の合わない人や治療が必要な人は、速やかに歯科医に繋げている。 | |

岐阜県 グループホームくわのみ

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | 失禁のある人。自分からトイレに行けない人については、排泄パターンを掴み、トイレ誘導をしている。新規の利用者様にはセンサー方式を利用して24時間の排泄パターンを把握するように努めている。食事前や入浴前にもトイレ誘導し、気持ちよく食事・入浴ができる様に努めている。 | | |
| 32 | | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている | 職員の体制上夕食後の入浴はできていない。日中の入浴になるが、順番はおおよそ決めておくものの、その人の気持ちを大事にして、状況にあわせて柔軟に対応している。「入りたい」という人には出来るだけ希望を叶えている。 | | |
| 33 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 自室やリビングで休息をとっていただくようにしている。また夜間覚醒が頻回な人には夜間良眠できるように、日中少しでも身体を動かすように働きかけている。また、夜間頻尿の方に対して、医師と相談している。 | | |
| 34 | (22) | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 誤投与がないように夜勤者が翌日の薬をチェックする時、正確にチェックすること、服薬時に職員と本人で声に出して確認するようにしている。またその薬が現在の状況に適しているかどうか医師と相談し常に見直しをしている。 | 薬をセットする時や服薬支援時は、声を出して確認し誤薬を防止している。薬の変更時は、変更した経緯や薬効の情報等がパソコンに届き、全職員がチェックした上で、利用者の様子に注視し支援している。 | |
| 35 | (23) | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 外仕事が好きな方へ広い畑を提供し好きな花や野菜を育てていただき、皆で食べたり、お世話になった方へプレゼントしたりして役割や楽しみを持っていただいている。それぞれの利用者が役割を持てるように支援している。 | 野菜作りや花を育てる事が得意な人には、畑作業を楽しめるよう環境を整えている。また、趣味の刺し子、塗り絵やちぎり絵で干支の壁画作成など、楽しみながら張り合いに繋がる支援に努めている。おしぼり畳みや掃除なども、それぞれが役割を持って行えるよう支援している。 | |
| 36 | (24) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 入居者の希望をお聴きし、買い物、外食、散歩、ドライブなどによく出かけている。年1回は利用者、家族、地域住民等と一緒に日帰り旅行に出かけている。 | コロナ禍で外出行事は控えているが、デッキに出てお茶や景色を楽しみながら、外気浴や散歩をしている。5類移行後は、利用者、家族、職員と県営公園へ日帰り旅行を実施することができ、誕生日には家族と外食する利用者もある。 | |

岐阜県 グループホームくわのみ

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 37 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 利用者が欲しい物があつた時は事業所で立て替え払いしており、買い物などの場面で使えるように支援している。 | | |
| 38 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人から要望があれば、いつでも家族等に電話をかけることができるようにしている。また、年賀状など書くこと、書いた手紙を投函する等の支援をしている。家族と電話で話す内容のプランを立てている利用者もいる。 | | |
| 39 | (25) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ホームの室内には四季折々の花を飾り、季節感を感じていただくように工夫している。懐メロや童謡など、入居者の好きな曲をBGMで流したり、入居者の自作の貼り絵やぬり絵、書、俳句などを展示している。また、外の風景を見やすいような机の配置にしている。 | 居間は太い梁があり、木の温もりが感じられる。窓から外の景色を見渡すことができ、ウッドデッキには椅子とテーブルがあり、お茶や食事をする事も出来る。季節の花や飾り物、利用者の手作り作品等を飾り、居心地よい空間作りに心掛けている。浴室には機械浴の設置もある。 | |
| 40 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 景色を見ながらくつろげるように、デッキに椅子やテーブルを配置したり、テレビを見たり誰でもソファーでくつろげるよう居場所の工夫をしている。 | | |
| 41 | | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 本人が昔から使っていた筆筒、テーブルや椅子、人形など馴染の品を持ち込んでいただいたり、思い出の写真を飾ったりなど、居心地よく過ごせる工夫をしている。その利用者らしさが、出るような居室になるようにしている。 | | |
| 42 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 廊下には手すりがあり、歩行が不自由な入居者もつかまり歩行が可能である。また、トイレ、浴室にもその人にあつた手すりを設置している。 | | |